子どもの心を支える大人のための
ふくしま型レジリエンス リーフレット活用ガイド

福島県教育委員会
令和８年１１月発行

あなたの働きかけは、子どもの心の支えにつながっている



保護者や地域の方々



教職員





専門スタッフ

ふくしま型レジリエンス は、周囲の大人の関わりの中で育まれていきます

一緒に考えてみませんか？

ふくしま型レジリエンスをこれからも育んでいくために、『何を大切にして働きかけるのか』というまなざしを共有して、それぞれの立場から「できることは何か」を考えていきましょう。

リーフレットの ふくしま型レジリエンスが育まれている子どもの姿とは? を見ながら、目の前にいる子どもの様々な場面での姿を思い出してみましょう。

あなたには、目の前にいる子どもたちのどんな姿が見えていますか？

あなたは、子どもたちとのどのような関わりを大切にしていますか？

周囲の大人達が力を合わせて、子どもの心を支えていくヒントを探してみましょう。

未来につなごう！
福島の子どもたちに、これからも育みたい力
ふくしま型レジリエンス
～「子どもの心のサポートチーム協議会」からの提言～

福島県教育委員会
令和７年３月発行

「子どもの心のサポートチーム協議会」は、東日本大震災を経験した福島の子どもたちの心のケアを目的に、東日本大震災以降、毎年度教職員や専門家などが集まり、子どもたちが健やかに育つための支援について話し合っている会です。

子どもの心のサポートチーム協議会において、子どもたちの今を確認する中で、近年になり福島の子どもたちに育まれてきた力が明らかになりました。その力は、子どもたちが生きていく上での原動力であり、これからもより一層育みたい力であると捉え、本協議会の提言としてまとめるに至りました。

このリーフレットでは、「ふくしま型レジリエンスは、どんな力なのか」「ふくしま型レジリエンスが育まれている子どもの姿とは？」「周りの大人は、どのように働きかけ、支え育てていけばよいのか」「学校や保護者・地域、関係者等が大切にしたいこと」「福島県ではどのような取組を行っているのか」をご紹介します。

ふくしま型レジリエンスは、どんな力なのかな？

ふくしまに誇りを持ち、しなやかにたくましく生きる力

レジリエンスは、心の回復力、復元力、前へ進む力等の意味です。よりよい自分を築く礎となります。

福島の子どもたちは「しなやかに」変化に対応し、「たくましく」困難を乗り越えているのです。この力は、福島だけでなく、日本、そして世界で起こる様々な問題にも立ち向かう力になります。

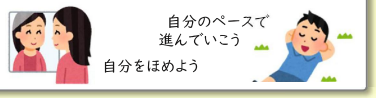
ふくしま応援！「ペコ太郎」

ふくしま型レジリエンスが育まれている子どもの姿とは？

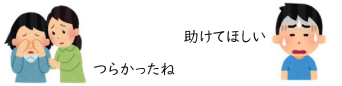
「大丈夫」と自分を励ましたり、困っていることを伝えたりする

「自分自身を大切にする」「助けを求める」ことが、困難を乗り越え、未来へ進むために欠かせないものです。

自分自身を大切にし、健やかにすごす姿



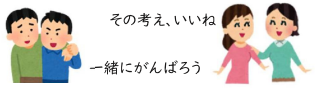
困っている時には、助けを求める姿



みんなと力を合わせる

周囲や地域の人々と協力し、問題を解決したり、地域をよりよくするための活動に取り組むことが、これからの福島をつくっていきます。

周囲の人々と協力し、支え合う姿



感謝の気持ちを忘れず、優しく接する姿

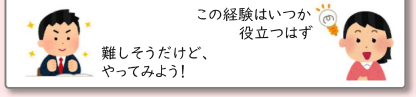


未曾有の経験から、当たり前に使っている電気や水のありがたさを感じたよ。みんなで使うものを大切にしていきたいね。

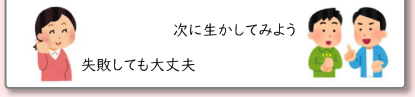
新しいことに挑戦しようとする

新しいことに興味を持ち、変化を恐れずに挑戦したり、新しいことに学ぶ楽しさを知ろうと働きかけることが、新たな福島をかたちづくります。

困難に立ち向かう姿



経験から学び、挑戦し続ける姿



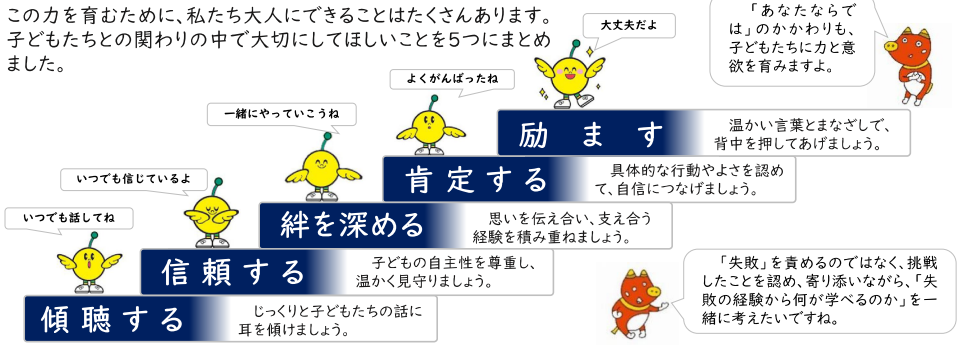
困ったり失敗したりしても、周りの誰かが助けたり励ましたりしてくれるって、すてきです。

このような姿を表出する子どもたちを支え育てているのは、周りの大人の働きかけです。これからも大切にしていきたい働きかけを裏面で紹介します。

周りの大人は、どのように働きかけ、支え育てていけばよいのかな？

子どもの成長を支え、寄り添うために 私たちにできること ～５つの提言～

「ふくしま型レジリエンス」は、安心できる環境の中で育まれます。
この力を育むために、私たち大人にできることはたくさんあります。
子どもたちとの関わりの中で大切にしてほしいことを５つにまとめました。



学校や保護者・地域、関係者等が大切にしたいこと

ふくしま型レジリエンスを育む基盤をつくる合言葉は“経験から学ぶ”と“まなざしを共有”

道徳教育と特別活動を両輪とし、豊かな体験活動や人間関係づくりを通して、子どもたちの「よりよく生きるための基盤となる道徳性」や「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」といった資質・能力を育みましょう。



「ふくしま道徳教育資料集」などを活用して震災を乗り越えてきた経験から学ぶ学習活動は、「ふくしま型レジリエンス」を育む上で効果的です。

「経験から学ぶ」教育活動の充実

保護者会や地域懇談会等で、学校の教育活動や家庭・地域で大切にしていることを伝え合い、子どもへのまなざしを共有しましょう。

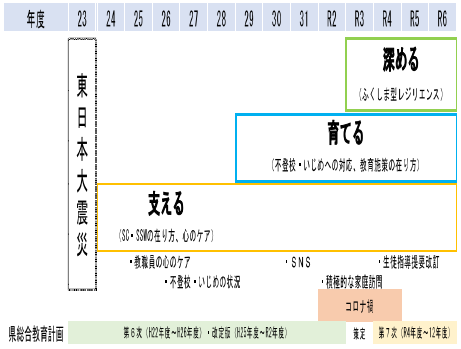




スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、医師、保健師等の専門家と共に、それぞれの立場から子どもへの思いを伝え合い、まなざしを共有して、子どもたちの心のケアの充実につなげましょう。

「まなざしを共有」する場の設定と充実

子どもの心のサポートチーム協議会の歩みと思い



今日まで社会情勢は大きく変化し、子どもたちが抱える課題も多様化してきました。その中で、本協議会は、常に子どもたちの心の声を聴き、ニーズに応えるための取組を続けてきました。特に、東日本大震災からの復興に向けては、被災地の子どもたちの心のケアに焦点を当て、具体的な支援策を検討してきました。

これらの経験を踏まえ、今後も、子どもたちの心の健康を支えるための活動を継続し、よりよい未来へと繋げていきたいと考えています。そして、子どもたちが「ふくしま型レジリエンス」を育み、未来を創造していくことができるよう、地域社会全体で子どもたちを支えていくことが、私たちの願いです。

東京成徳大学特任教授
学校心理士認定運営機構理事長　石隈利紀

福島県ではどのような取組を行っているのかな？

スクールカウンセラー スクールソーシャルワーカー

暴力行為、いじめ、不登校

教育相談

道徳教育

ふくしま道徳教育資料もダウンロードできます。

子どもの心のケアとサポートのために
Vol. 1　Vol. 2

様々な取組や実践事例が掲載されていますよ。

福島県教育委員会 ふくしま型レジリエンス　https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70056a/

よりよい働きかけを考える

リーフレットの **周りの大人は、どのように働きかけ、支え育てていけばよいのかな？** を見ながら、「あの子どもとの関わりだったら…」のように想定して考えてみましょう。

子どもへの関わりに取り入れてみたいことはありますか？

子どもの失敗を責めるのではなく、挑戦したことを認め、寄り添いながら、「失敗の経験から何が学べるのか」を大人も一緒に考えることが大切です。

子どもの心の支えになるために
リーフレットを活用して話し合う

今ある教育活動や行事等に「少しだけ加える」から始めてみましょう

年度はじめ 学期はじめ	校内研修	ケース会議	保護者会 地域の集まり	学期末 年度末　等
あわせる	**語り合う**	**伝え合う**	**かさねる**	**振り返る**
• 子どもの実態を把握する。 • 支援の方向性を共有する。	• 子どもの心を支える方法等の学びを深める。 • 支援の質を高める。	• 多職種で情報を基に話し合い、子どもへの思いを共有する。	• それぞれが見つけている子どもの「よさ」を伝え合う。 • 子どもへの思いを共有する。	• 日々の指導を振り返り、自分「ならでは」の指導方法を見つめ直す。

働きかけを共に考える

様々な立場の方々と共に考えてみましょう ～おすすめの話題～

- ☐ あなたに見えている子どもの姿を語り合おう
- ☐ 「失敗から学ぶ」教育活動を見直そう
- ☐ 「助けて」という言えるよさを考えよう
- ☐ 家庭だからこそできる「レジリエンス」を考えよう
- ☐ 子どもの心を受け止める大人の関わりを考えよう
- ☐ 地域で育てていきたい子どもの姿を考えよう
- ☐ 子どもの行動と「心のエネルギー」を考えよう
- ☐ 「自分を認め、励ます」を体験しよう　　等

私たち大人だって、ふくしま型レジリエンスを育てていくことが大切です。「今までの関わりでよかったかな」と不安な時、リーフレットを読み返すと、目の前の子どもへの、そして自分自身へのエールにもなります。

“５分”でもできるワーク(案)

リーフレット「私たちにできること～５つの提言～」より

「肯定する」働きかけをブラッシュアップ！

1. **ほりおこす　【１分】**
   個人　最近の子どもの「がんばり」を書き出す。
2. **さがす　【１分】**
   集団　リーフレットの「ふくしま型レジリエンスが育まれている子どもの姿」のどこに当てはまるか話し合う。
3. **かんがえる　【２分】**
   集団　明日、それぞれの子どもに肯定する「どんな言葉をかけるか」を考える。
4. **きめる　【１分】**
   個人　自分がかける言葉を選び、決める。